

令和5年度図書館運営に対する評価方法について（案）

区立図書館業務計画書に記載された千代田区立図書館の5つのコンセプトに基づき、毎年度の図書館の運営状況について評価を行います。評価に際しては「図書館評価シート」を使用します。

評価の結果は「千代田区立図書館運営評価」としてまとめ、区ホームページ等で公表するとともに、図書館運営の改善に役立てます。

■評価の視点

令和5年度については、新型コロナウイルス感染症も5類に引き下げられ、ウィズコロナの状況であった4年度とほぼ同じ図書館運営となりました。このため、令和2～4年度まで評価の視点としていた「指定管理者による自己評価」「評議会委員の評価」に加えて、元年度に採用していた「実績評価」を取り入れ、①実績評価、②指定管理者による自己評価、③評議会委員の評価の3つの視点から各取り組みを明確に評価します。

■評価の流れ

千代田区図書館評議会にて、評価に用いる指標を決定します。

↓

①指標別の実績評価、②指定管理者による自己評価、③評議会委員による評価を行います。

↓

コンセプト別に総合評価を行います。

■評価基準

(1) 実績評価の評価基準

ア. 指標別評価

各取り組みを明確に評価できるように、指標ごとに目標達成率を用いて評価を行います。目標達成率の値に応じて達成度を3～0の4段階で評価します。

$$\text{目標達成率(\%)} = (\text{評価年度実績値} \div \text{目標値または前年度実績}) \times 100$$

評価基準	目標達成率	指標別評価
目標を達成した・目標以上の成果	100%以上	3
目標をほぼ達成した	100%未満 80%以上	2
目標をあまり達成できなかった	80%未満 60%以上	1
目標を達成できなかった	60%未満	0

イ. 実績評価

指標別評価の平均値に基づいて、a～dの4段階で評価します。

評価基準	指標別評価の平均値	評価(評価点)
目標を達成した・目標以上の成果	2.7以上	a (3)
目標をほぼ達成した	2.7未満 2.0以上	b (2)
目標をあまり達成できなかった	2.0未満 1.0以上	c (1)
目標を達成できなかった	1.0未満	d (0)

(2) 指定管理者による自己評価基準

実績評価の結果を基に、指定管理者が自己評価を行います。評価シートに実績や業務の改善点を記入するとともに、以下の評価基準に基づいて4段階で評価を行います。

— 手 順 —

- ア. 「5年度目標値」欄に目標値、「5年度実績」欄に実績を記入します（5年度目標達成率は自動計算されます）。
- イ. 「指標別評価」欄に、(1)-アの基準に基づいて評価値（3～0）を記入します。
- ウ. 「実績評価」欄に、(1)-イの基準に基づいて評価値（a～d）を記入します。
- エ. 〈指定管理者による自己評価〉欄には、まず「各項目の評価」欄に下記の基準に基づいて、評価値（a～d）を記入し、その自己評価も簡潔に記入します。
- オ. 次に「評価項目全体の自己評価」欄に、評価項目全体の自己評価として、評価できる点や改善点等を記入します。
- カ. 最後に、「評価項目全体の評価」欄に、下記の基準に基づいて、a～dの4段階で評価します。

評価基準	評価（評価点）
図書館として、優れた管理運営がなされている	a (3)
図書館として、適切な管理運営がなされている	b (2)
図書館として、やや不適切な管理運営がなされている	c (1)
図書館として、不適切な管理運営がなされている	d (0)

(3) 評議会委員の評価基準

評価シートに記載している①実績評価および②指定管理者による自己評価の結果を基に、評議会委員による評価を行います。

指定管理者の自己評価と同様の基準に沿って、4段階で評価を行うとともに、自由記述欄には実績や指定管理者の実施状況等に対する意見と、次年度に向けた改善点・提案等を記入します。

(4) 総合評価基準

①実績評価、②指定管理者による自己評価、③評議会委員の評価の結果を基に総合評価を行います。評価に際しては、評価点の平均値に基づいて、4段階で評価します。

評価点の平均値	総合評価
2.6 以上	A
2.6 未満 2.0 以上	B
2.0 未満 1.0 以上	C
1.0 未満	D